

ブレインタイム

千年幼稚園式 就学前指導

千年幼稚園

☎ 099-220-8686

☎ 099-220-8678

✉ sennen8686@yahoo.co.jp

🌐 <https://sennen8686.com>

[対象児]年長

[カリキュラム構成・指導教諭]本園教諭

[保有資格]幼稚園教諭免許状・保育士資格

中学校及び高等学校教諭免許状(国語科) 他多数

[指導教材]指定するテキスト・千年幼稚園オリジナル教材

【はじめに】

生きていく中で欠かせない「文字」と「数」ですが、表現力の育成と思考の育成は連動しており、1つを育てると相乗効果が表れるといわれております。本園のブレインタイムにおいて大切にしたいことは幼児期の学びの軸である「あそび」をメインに、自発的に取り組むことのできるアクティビティ要素をもった活動を取り入れるということです。またどうしても個人差がある活動ですのでご家庭におきましても「他児と比較しない」「焦らせない」「繰り返し練習して定着を図る」といったご協力をいただきながら家庭と幼稚園とが連携して子どもの育ちを見守ります。もちろん幼児を対象とした活動になりますので所謂「お勉強」ではなくカードやオリジナル教材を用いて「遊びを通した生きる力の習得」に努めてまいります。

学校教育法に「義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を教育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長すること」とありますので本園でも小学校教育との接続を踏まえ基礎知識を培うとともに、「生きる力」を身に付けるカリキュラムとしていきます。

【幼児期から小学校一年生までの家庭教育調査】

	年少児		年中児		年長児	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
自分の名前を読める	79.1	87.7	95.5	98.1	97.9	99.1
かな文字を読める	58.4	70.0	81.9	89.7	92.1	97.7
自分の名前をひらがなで書ける	31.8	59.6	77.4	94.1	96.5	98.8
1, 2, 3, 4と20までの数を正しく数えられる	80.6	86.5	94.4	95.1	97.2	97.6
指やおはじきなどを使って、数をたしたり、引いたりすることができる	27.8	27.4	65.0	68.9	85.8	87.4
自分のことばで順序たてて、相手にわかるように話せる	68.5	74.4	80.2	82.1	82.9	87.9
えんぴつを正しく持てる	52.6	72.2	73.8	83.8	83.5	86.2
絵本や図鑑を1人で読める	48.8	55.0	69.3	79.5	84.0	92.1

※「とても+まああてはまる」の%。

※カッコ内はサンプル数。

(出典)ベネッセ次世代育成研究所「第1回幼児期から小学校1年生の家庭教育調査報告書(2013年3月)」より文部科学省作成

【土台作り】

- ① 学習の土台をつくる。具体的には「学習する習慣」を身につける。年齢+1分はしっかりと座って集中できるようにする。
- ② 机に向かう際の正しい姿勢や鉛筆の持ち方を覚える。
- ③ 前に立っている人(教諭)が話をしているときはしっかりと耳を傾ける。

【1年間の流れ】

- ① 文字の読み書き…使用テキスト「チャイルドブック あいうえおとことば」

文字を書く際の姿勢、正しい鉛筆の持ち方、書き順を軸に、様々な言葉に触れ語彙力の増加をはかる。またひらがなの読み書きは小学校進学後、国語だけではなくすべての教科で必要不可欠であることから就学前の習得が望ましいと考える。

- ② 数字の概念の理解…使用テキスト「チャイルドブック あいうえおとことば」

数字の概念の理解については子どもの理解度の差が顕著に表れるため、子どもたちが就学前に苦手意識を持たないように座学だけでなくアクティビティを交えながらの学びとする。日常生活の中で無意識のうちに習得しやすいものなので担任と情報共有を行いながら通常保育の際も子どもたちが数について興味を持てる環境構成や声掛けを行う。大きい数・小さい数の理解、1~100まで数えることができるようになることも目標とする。

- ③ ブレイン活動…オリジナル教材を使用して集中力や理解力を高めます。色の認識・語彙力の増加・国旗・合わせた数・音読・インオーダー(素話を聞いて順序通りに教材を並べ替えます)



【幼児教育と小学校教育の円滑な接続の在り方及び幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿】

○思考力の芽生え

EX)・物との多様なかかわりの中で、物の性質や仕組みについて考えたり、気づいたりする。

・身近な物や用具などの特性や仕組みを生かしたり、いろいろな予想をしたり、楽しみながら工夫して使う。

○数量・図形、文字等への関心・感覚

EX)・生活や遊びを通じて、自分たちに関係の深い数量、長短、広さや速さ、図形の特徴などに関心を持ち、必要

感をもって数えたり、比べたり、組み合わせたりする。

・文字や様々な標識が、生活や遊びの中で人と人をつなぐコミュニケーションの役割を持つことに気付く、読んだり、書いたり、使ったりする。

○言葉による伝え合い

EX)・相手の話の内容を注意して聞いて分かったり、自分の思いや考えなどを相手に分かるように話したりするなどして、言葉を通して教職員や友達と心を通わせる。

・イメージや考えを言葉で表現しながら、遊びを通して文字の意味や役割を認識したり、記号としての文字を獲得する必要性を理解したりし、必要に応じて具体的な物と対応させて、文字を読んだり、書いたりする。

・絵本や物語などに親しみ、興味を持って聞き、想像をする楽しさを味わうことを通して、その言葉の持つ意味の面白さを感じたり、その想像の世界を友達と共有し、言葉による表現を楽しんだりする。

(出典)「4. 幼児期から児童期にかけて求められる教育」文部科学省